

延岡工高

# 実習室にビオトープ

23.12.7

今日

## ホタル生態調査に活用へ

延岡市の北川流域に生息するホタルの減少原因を調べている延岡工業高環境化学システム科に、ホタルの幼虫から成虫までを室内で生息させるビオトープの原型が出来上がった。これまでは調査・研究のため北川に足を運ばざるを得なかったが、校内で調査・研究ができるとあって生徒たちも喜んでいる。

同科は、3年前にホタルの減少に関する調査を開始。北川に架かる橋の夜間照明の影響や水質調査などを通し、減少原因と周囲の環境との科学的な因果関係を探っている。

ビオトープは同科の前3年生が課題研究として取り組んでいたが製作途中で卒業。その後、今年3月に退職した同科元教諭の松下幸一郎さん

(81)門川町宮ヶ原が引き継いだ。松下さんはほぼ毎日同校に出向き、学校の廃材を利用してなどして約8カ月間で原型(長さ4・15メートル、幅3・3メートル)を完成させ、実習室内に設置。室内でのビオトープ設置は珍しいという。

北川の支流である本川を想定したビオトープは石などが敷き詰められ、カルキ抜きした水道水を循環させる仕組み。今後は幼虫を成長させるために植物を植え、来年3月までに出来る予定。

これまでは学校から車で40分かけ現地へ行かねばならぬ上、照度調査は夜間に実施していた。同科環境科学部長で3年の川崎仁士君(18)は「これからは安心して調査・研究できるのでうれしい」、

学科主任の井省吾教諭(54)は「来春からはビオトープを使った本格的な調査・研究ができ、しっかりとデータの取得が期待できる」と話している。(延岡支社・杉尾守)

### ◆ ホタル保存会 水路環境整備

都城市の祝吉ホタルの里保存会(大山竹文会長、28人)は、ホタルが生息する同市郡元町にある稻荷神社北側の水路周辺でクリーン作戦をこのほど行った。写真。沖水川筋土地改良区と都城淡水漁業協同組合も協力した。約30人が集合。水路に日光が届くようにチェーンソーや

枝切りばさみで邪魔な木を切ったり、水路のごみを取り除いたりして汗。ホタルが育ちやすいように環境を整えていった。

大山会長(64)は「シーズン中は1日で600匹ほど見られる場所。子どもたちに残していけるように大切にしていきたい」と話していた。

同保存会はホタルを守るため毎年、水質検査や生息数のカウントなどを行っている。



延岡工業高・環境化学システム科の実習室に完成したホタルのビオトープの原型